

2020年度 後期授業評価アンケート 顕彰科目担当教員コメント

教員名	破田野 智己
顕彰科目名	心理学研究法
<p>●授業運営において工夫されている点</p> <p>この授業では、心理学の研究方法を学びながら、先行研究や自身の研究計画を批判的に検討する力を養ってもらうことを目指しています。</p> <p>そのため、初回の授業で心理学の様々な分野を紹介するとともに、受講生自身の興味に応じた論文を探して持参し、以降の授業ではその論文と授業内容を見比べることを求めています。これにより、論文をどのように読めばよいのかを学ぶとともに、著者が何を解明したのかを知り、そのためにはどのような計画を立てる必要があるのか、結果はどう数値化し分析できるのか、さらに、そこから何が主張できるのか、同時に何を主張してはいけないのかを学べるものと考えています。換言するなら、受講生は、新しい知見を生み出すために研究者が行っていることを追体験することで、論文を自分の視点から細やかに読んでいくこととなります。</p> <p>もちろん、受講生の多くは論文を精読したことがありませんので、戸惑ったり詰まったりすることも多いのですが、そうした困難を授業中に体験してもらうことも、この授業の狙いです。受講生は当初、「論文を持参したが、何をどう読めばいいのかわからない」という状態ですが、論文の構成を知れば著者の主張がどこに書いてあるかわかりますし、実験計画を学べば研究方法の妥当性を検証できるようになります。そうして同じ論文を様々な角度から繰り返し読み解いていくうちに、わからないことだらけだった論文が、わかることだらけに近づいていくという体験ができます。</p> <p>以上のような目的を踏まえ、授業は毎回1時間を目途にレクチャーを終了し、残りの30分で各自の論文と対峙しながら要点をまとめるという小レポートを毎回提出してもらっています。テーマは目的の洗い出しや実験計画の整理、結果と考察の整合性など様々ですが、受講生は時間をかけて、真摯にこれらに取り組んでいます。中には論文を複数持参し、授業中にそれらを見比べながら理解を深めようとする受講生もいます。そうした姿を見るにつけ、この授業スタイルは、花園大学の学生の真面目な姿勢があって初めて成立しているのだと感じています。</p> <p>●今後取り組んでいこうと考えておられることなど</p> <p>抽象的で把握しにくいテーマを扱った回の授業では、受講生の理解を十分に得られていないことがありましたので、それらの回では理解を促進できるよう、具体的な例を増やしていくことを考えております。</p> <p>また、持参する論文が難解な場合、どうしても詰まりがちになりますし、受講生のモチベーションも保ちにくくなりますので、論文を検索するところから一緒に行えればと考えております。</p>	